

第 150 回記念「省エネルギー学習会」

新春対談 環境の問題と食品ロスについて

令和 2 年 1 月 10 日（金）13 時 30 分、スタートおおたかの森ホール「リハーサル室」に於いて約 50 名の参加者を得て、第 150 回記念「省エネルギー学習会」が開催された。

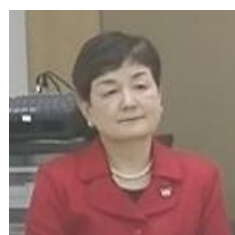
最初に「環境の問題と食品ロスについて」として、元農水相の齋藤 健衆議院議員と、NPO 持続可能な社会をつくる元気ネットの鬼沢良子事務局長とで新春対談が行われた。



球温暖化に配慮した企業を選ぶ傾向が日本中に広がっている。東京、京都市、横浜市など、31 の自治体が CO₂ 排出ゼロを表明している。

温暖化の影響はこれからも加速してゆく。2030 年の対策は甘かった。今までの生活を考え一人一人がアクションを起こすこと。それが企業の温暖化対策に向けた取り組みにつながる。

都市の農業を守ることは災害時の食料確保の面からも必要である。数年前までは農地の宅地化を進める政策であったが、現在は、発想転換、「都市農業基本法」が施行されている。



次いで、鬼沢事務局長から、SDGs（持続可能な開発目標）は環境、経済、社会をバランスよく成り立たせることを目標としている。人々の暮らしの中で、平和と地球環境を守るためにどう行動するか。

目標:12 つくる責任 つかう責任



まず、齋藤議員から、地球温暖化のメカニズム、そして現状を話された。世界の平均気温は当初は 2℃でおさまると想定されていたが、実際にはもうす

でに 1℃上昇、これは甘かったのではなく、今まで以上に加速しているということ。わが国は CO₂ 排出国として世界 5 位。中国、アメリカ、インドで約 5 割を排出している。いま、脱炭素経営に向けた取り組みを始めた企業が広がっている。投資家も地

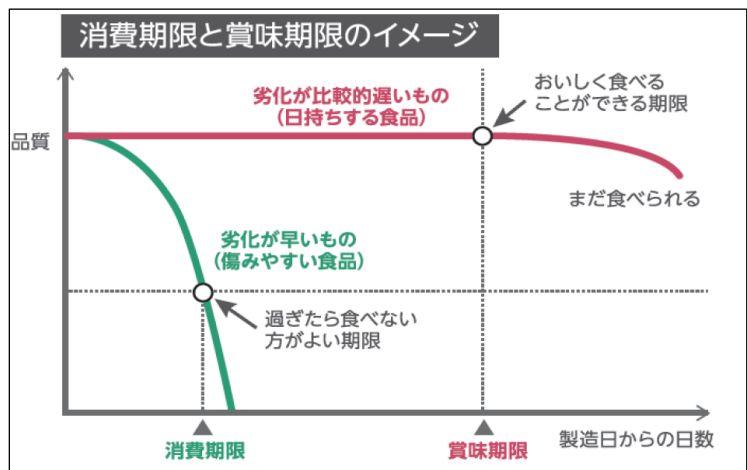
毎日、一人ご飯一杯分が捨てられている。この暮らしを変えましょう。例えば、購買時、手前の物からとる。いかに多くのものを捨てているかを知らない人が多い。

●「食品ロス」…食べられるのに捨てられた食品

- ① 調理に使いきれずに捨てられたもの【買いすぎ】
- ② 賞味期限や消費期限が切れて捨てられたもの【期限切れ】
- ③ 調理のときに食べられる部分が捨てられたもの【過剰除去】
- ④ 食べきれずに捨てられたもの【食べ残し】
- ⑤ その他の理由で捨てられたもの

	賞味期限	消費期限
意味	おいしく食べることができる目安	安全に食べられる期限
表示	3か月を超えると年月	年月日
対象	卵・ハム・ソーセージ・スナック菓子・缶詰・レトルト食品・カップめん等	弁当・サンドイッチ・惣菜・ケーキ等

これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄は地球温暖化につながる。意識を変えていくことが大切。食料は地産地消を心がけよう、食べ物を遠い所から運ばれる、CO₂ 排出。海外からのフードマイレージ、日本はダントツに多い。



食品のロスを半減させるという運動が各国取り組んでいる。10月には食品ロス削減月間であった。食品ロス削減推進法が施行された。毎日、封も切らないで食品が捨てられている。この暮らしを変えましょう。2050年には地球人口は96億人と言われている。当然食料は不足します。

国民1人1日当たり食品ロス量は、
およそ茶碗1杯分のご飯の量に相当。



「森のタンブラー」について、アサヒビール(株)イノベーション本部の古原 徹副課長から紹介があった。

「森のタンブラー」は環境に優しい「モノ」というだけでなく、使い捨てという所作自体を変えていきたいという想いで「コト」の開発を行いました。世の中の当たり前、を変えることは簡単ではないですが、イノベーションの役割だと感じています。

アサヒビールのプラカップ 1200万個/年



イノベティブな技術・仕組み作りで、
日本の使い捨てプラカップ「ゼロ」を目指す



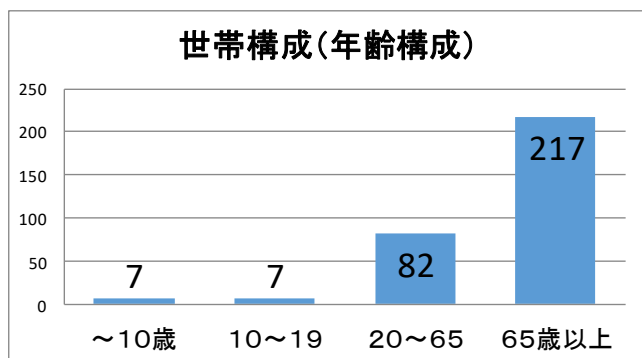
カップを使い捨てしないビールの飲用スタイルを目指して、世界初の環境素材エコカップ「森のタンブラー」で初春を祝った。

(石垣 幸子)

2018年度 千葉県 推進員（133名）のエネルギー消費実態

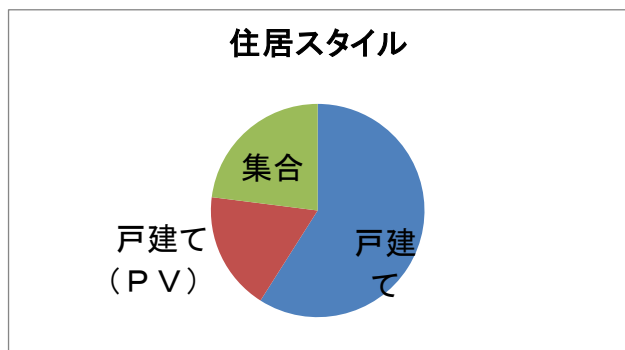
資料提供：千葉県地球温暖化防止活動推進センター

1. 推進員の世帯構成：65歳以上が70%



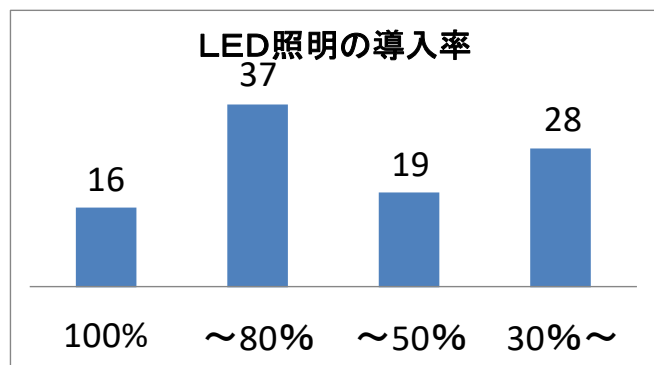
世帯人数の平均は、2.4人

2. 推進員の住居スタイル



戸建て住宅：77%、集合住宅は23%

3. LED照明の普及率は、約70%か？



4. 電気ポットジャーの使用率

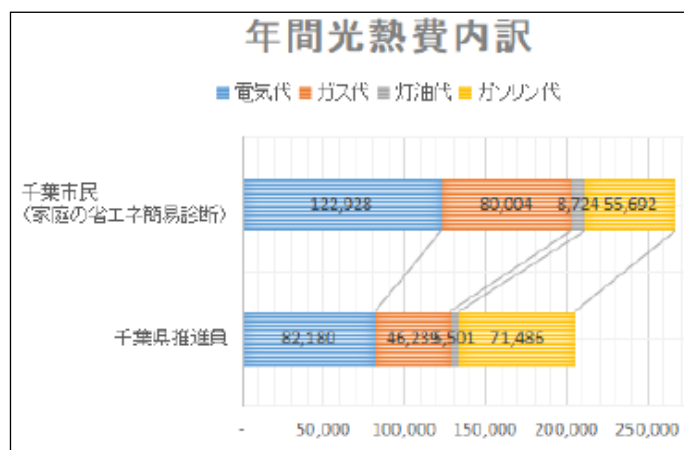
- 使用している = 27%
- 使用していない = 73%

5. 消費エネルギー（電気・ガス・灯油）

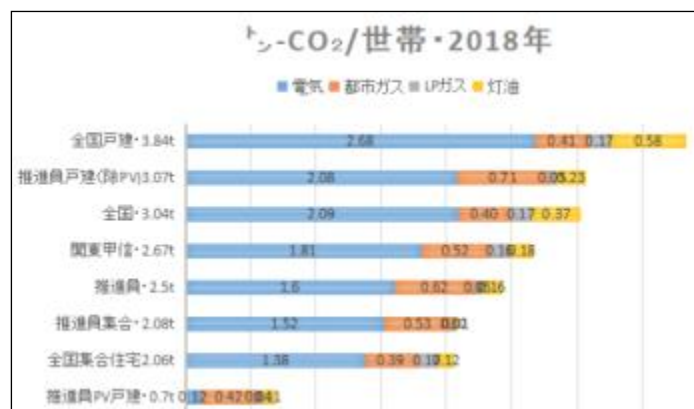
- 戸建住宅 = 2,654kwh (100%)
- PV設置 = 2,578kwh (97%)
- 集合住宅 = 1,980kwh (75%)

(1人あたり)

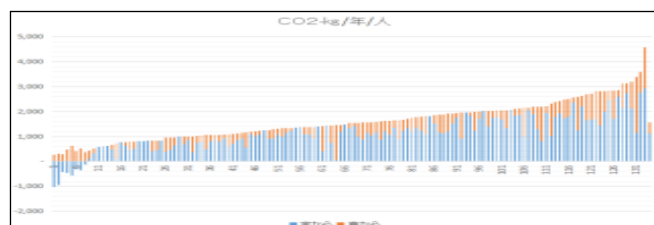
6. 推進員の年間光熱費は、一般市民より25%節約



7. 推進員のCO₂排出量 (3.1 t) は、全国平均 (3.8 t) より 20%少ない。(戸建て)



8. 推進員のCO₂排出量は、バラツキがある



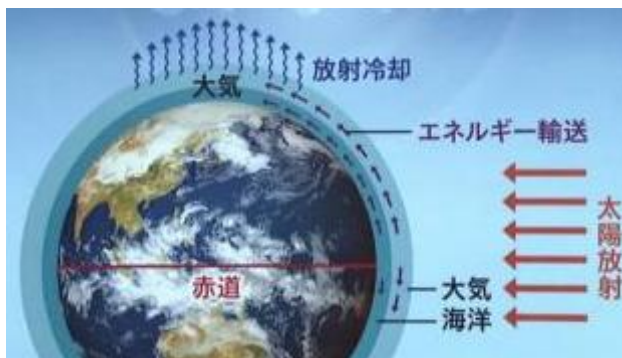
2 月度「省エネ学習会」

気象学入門「大気循環」など

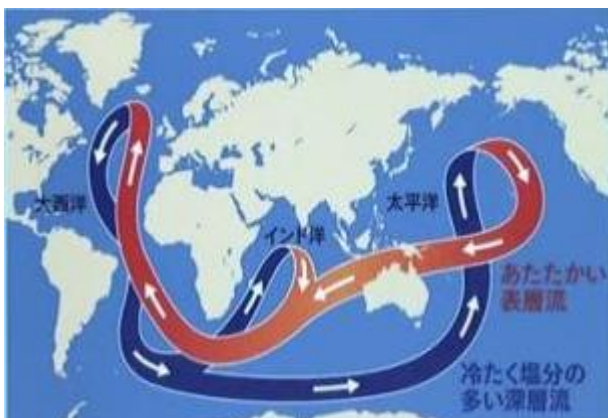
令和 2 年 2 月 7 日（金）13：30、流山市生涯学習センターに於いて 2 月度省エネ学習会が開催された。内容は気象学入門として「グローバルな大気循環」「エルニーニョと大気海洋相互作用」放送大学教材（田中 博：筑波大学教授）を使って学習した。次いで「東葛地区の気候変化」（気象予報士 田中和孝）の説明があった。



エネルギーの南北輸送



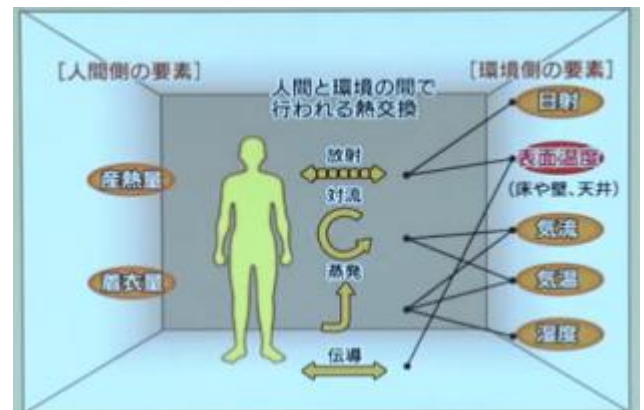
熱塩循環



3 月度「省エネ学習会」

気象学入門「大気循環」など

令和 2 年 3 月 6 日（金）13：30、流山市生涯学習センターに於いて 3 月度省エネ学習会が開催された。内容は「都市・建築の環境とエネルギー」放送大学教材（梅干野 晁：東京工業大学名誉教授）を使って学習した。



編集後記

この冬は、西高東低の冬型気圧配置が長続きせず、暖かな日が多かった。そしていつの間に忍びよったのか。新型コロナウイルスの世界中の大流行。息をひそめて収まるのを待つのみ。

新春対談で問題になった食品のロス問題。地球温暖化の影響で、気候不順や砂漠化が進み世界の農業は大きな危機を迎えている。食料の減産は避けられない。これまでは大量生産、大量消費、大量廃棄であった。農林水産省によると、日本における売れ残りや返品などの食品のロスは、推計年 643 万トン（3/11 朝日新聞）にのぼるという。いま、フードロス削減のビジネスが広がりを見せているというが、毎日ひとりごはん 1 杯分が捨てられているという。食べ物を無駄にしない、ごみを減らそう、スーパーでの買いすぎ注意！ 肝に命じよう！

（石垣幸子）